

# 令和7年度 第2回青森県総合社会教育センター運営協議会 議事録（要旨）

## 1 日時

令和8年2月26日（木）10時00分～12時00分

## 2 場所

青森県総合社会教育センター4階 第2教材開発室

## 3 議題

- (1) 令和7年度の実績と令和8年度の取組について
  - ① 全体説明
  - ② 育成研修課
  - ③ 教育活動支援課
- (2) 令和7年度指定管理者の業務概要について

## 4 出席者

〔委員〕

小山田委員、秋田委員、菊地委員、高橋委員、木村委員、大西委員、  
沼田委員、和田委員、金澤委員、工藤（清）委員

〔県総合社会教育センター〕

白戸所長、今泉副所長、崎野総務課長、木村総務課副課長  
新山育成研修課長、佐藤育成研修課副課長  
川嶋教育活動支援課長、佐々木教育活動支援課副課長

〔学び・生かすあおもりグループ（指定管理者）〕

渡部事務局長

## 5 議事録

《案件（1）、（2）について》

### 【委員】

私は、運営協議会の委員として来ていますが、社会教育をしていく仲間として話をさせていただきます。まず、所長さんから「人と人をつなぐ人を育てる」というキーワードをいただきましたが、センターのみなさんで話し合ったとのことで、とてもいいキーワードだと思いました。私は、いろいろな方とお話ししていますが、現在は、一人で生きていける社会になってしまっています。しかし、あるとき急に一人で生きていけないことに気づくことがあります。

す。だから、この「人と人をつなぐ人を育てる」がとても大事だと感じています。5年後、10年後をめざす姿を示してもらったので、私たちもそこに向けてこの協議会に来ているのだと自覚が湧き、頑張りたいという気持ちが出てきました。

タイトルの「高校生地域活動講座～チャレンジAOMORI!～」も名前の一貫性ができたなと思って、高校生から大学生、社会人になってからという流れがいいなと思いました。その他の家庭教育につながっていけば、社会教育全般をカバーできるのかなと思って聞いていました。特に「高校生地域活動講座」がすごくいいと思っています。今、弘前市の高校生放課後まちづくりクラブのSTEPさんが良い活動をしています。この間も活動発表がありました。五所川原のじゃわめき隊プロジェクトもありますし、十和田のハピたのや高校生のマイプロジェクトもあります。先日は、北斗高校の方がチーム北斗として出演・発表していました。今すぐみなさんに伝えたいくらいいいと思いますし、そこからつながっていきそうだと感じています。

「家庭教育」で思ったのは、先ほど話したように一人で生きていけないという点で、思いやりがすごく大事だということです。いいおせっかいができなくなって、おせっかいがハラスメントのように受け取られる風潮がありますが、思いやりを持って相手を気にかけるおせっかいはとても大事だと思います。この家庭教育や社会教育センターで行っていることを、自信を持ってどんどん実施し、周知して届くようにしてほしいと思います。

また、前半の話聞いて、前回は活動報告は担当の方がお話ししてくれたと思いますが、時間が足りなくなるかもしれませんが、担当の方がご報告して下さると想いも伝わると思います。そういう報告のあり方もいいかなと思いました。

### 【委員】

報告を聞いていて、本当に地域の中でいろいろな形で実現できていると感じています。いくつか質問ですが、「家庭教育支援普及啓発事業」で、来年度の事業の中に、より身近な場所、ショッピングセンター等で親子の学び応援フェアを開催するという項目があり、その時期が2月頃になっています。この2月頃にした経緯を教えてください。

### 【事務局】

いろいろ要素がありますが、まず1つはアドバイザー養成講座を1月頃まで実施していることです。そこでアドバイザーになった方や、この事業に興味を持った方が参加しやすい時期ということが1つあります。お子さんのいるご家庭に来ていただきたいと考えたとき、冬は出かける場所が少ないという声が家

庭から上がっているということもあります。当然、今年のような雪の状況だと厳しい面もあるかもしれませんが、冬に子どもが保護者と一緒に遊んだり楽しんだりできる場所を提供することも一つの試みとしてやってみようということで、2月に設定しています。

#### 【委員】

行き場や遊び場がないということは大きな課題だと思っています。2月は他にも様々なイベントが行われることが多いので、せっかく開催するならできるだけ多くの親子に来ていただければと思います。そのためには周知がとても重要だと思います。また、買い物のついでに寄っていただけるイメージで、各地区で休日に1回ずつ開催するような形もいいかなと思います。

#### 【委員】

ありす（指定管理者）と県の方の事業で高校生を育成し、高校生に機会を与える事業を来年も企画しているようですが、ここでの学びサポーターの募集と連携すれば、登録者も増えるでしょうし、高校生を活用できる場所も双方で持てると思います。案やアイデアを持ち寄れば同じ事業のように感じられるので、育てる部分は社会教育センターで行って、そこを活用する形での事業を来年度も計画しているようですので、その活用事業を学びサポーターの方とも一緒に進められれば、同じ場所にありますし、同じ趣旨でいいと思いました。勉強するだけではなく、活用できる、活動できる場所をぜひ提供していただければと思いますので、来年度の事業を大いに期待しています。頑張ってください。

#### 【委員】

本当に緻密な計算のもとに事業が進められていると感じました。パワフルの事業も家庭教育の事業も、一つひとつを実際に運営している方は大変だと思いますが、それが着実に積み上げられてきていることが良かったです。今年度のことについて先ほど話がありましたが、PTAの研究大会が今年は西北の方で行われ、その第二部の会合に家庭教育アドバイザーの方にご参加いただきました。本当にありがとうございます。とても盛り上がり、このような研究会がもっともっとあればいいなと思いましたし、前向きな意見がたくさん出ました。今後は、ただ聞いて終わるのではなく、ワークショップ参加型の分科会を開いていけると感じました。本当にありがとうございました。それから意見ですが、パワフルの方で学んだ方々は、今現在、各地域で学んだことをもとにい

ろいろ活動されていると思います。もし、経過報告がありましたら教えていただきたいです。

### 【事務局】

「パワフルAOMORI！」の経過報告につきましては、いろいろあるのですが、今おっしゃったようなみなさんにお示しできるような形で一覧にすることは、まさしく来年度に着手しようと思っており、成果発表できればいいなど考えています。参加人数は少ないのですが、かなり精鋭部隊が集まっており、現在も活躍されている方がたくさんいらっしゃいます。先日行った講座でも、卒塾生がいろいろアドバイスに来てくれたりするなどの関わりがありましたので、そこはまた来年度運営協議会で報告できるように整えていきたいと考えています。

自然体験活動については、このような貴重な体験は今後の社会にも必要だと認識しています。その点は大事にしていきたいと思います。来年度行う高校生講座では、なるべく体験を用いたフィールドワークを取り入れたいと考えており、講義だけではなく現地に行っているいろいろな体験をしながら学んでもらう計画をしていましたし、もっと気軽に取り組める体験についてはまだ課題として考えていかなければいけません、そのような点も念頭に置きながら事業の見直しを進めてまいりたいと思います。

### 【委員】

パワフルの卒塾生のみなさんの活動については、情報をつかめたらいろいろな形で発信し、それを見た方がまたやる気を出して「じゃあ自分も」と広がっていくのではないかと思います。よろしくお願いします。

### 【委員】

このような素晴らしい企画をしてくださり、また、このような見やすく分かりやすい資料を本当にありがとうございます。拝見して心が温かくなり、タイトルの変更などもとてもよいと感じられて、今日は本当に嬉しいです。みなさんの幸福感をみなさんで学んでいこうという姿勢で、引っ張ってくれているのは素晴らしいと思いました。私は家庭教育支援の立場で、キャラクターの「シャメルン」と「もりのん」にやっと会えてうれしかったです。このキャラクターがついているティッシュも可愛くて、孫に持って帰ったらとても人気で、3人の孫がそれぞれキャラクターの顔を描いたりして、とても喜んでいました。とてもいいキャラクターだと思います。

ところで、動画をみなさんに見てもらった時に、今回の防災の動画では伝えたいことが本当にはっきりしていて、内容に緊急性があり、今すぐ準備しなけ

ればという気持ちになったと言っていました。中高学年編では、災害予防問題への説明がとても詳しくて参考になったと聞いています。ある方は、LINE 確認というサービスを知らなかったのので、すぐ使ってみようと思ったそうです。また、悩んでいるときは言葉や文字が入ってこないことがあります。悩んでいるお母さんのための「今これを聴いてみればいいよ」というおすすめの音楽が今はたくさんあると思います。YouTube でもいろいろ調べられますね。

1つ提案ですが、切羽詰まった時に見る、脳や周波数に関係する、そのような気持ちを助ける5分ぐらいの映像や音楽があれば、いいのではないかと思います。家庭教育支援もすべてにつながっているのので、今回本当に素晴らしいと思って参加させていただきました。

### 【委員】

最近、保育園のこどもの様子をじっくり観察したり、小学校・中学校の先生方に最近のこどもはどうかとお話を伺ったりすると、まず運動ができなくて、走ることが上手にできない、ということでした。転んでも手が出なくて、顔面から転ぶのです。前歯や口の周りにもけがをしまいます。

このような状況で、学校の先生方がよくおっしゃるのは、長時間スマホやゲームをしているので、運動する機会が少ないため、体を動かさないということです。例えばボールを投げられない、上手に走れないといったことが多く出てきます。ボールを投げるためには、ボールを持って上から投げるときに体をひねり、足も出すなど、一度に3つの動作が必要ですが、最近のこどもは、一度に1つの動作しかできないのです。そのため、最近のこどもは、私たちが考えている以上に、非常に体力がなく、精神的な面も弱くなってきていると改めて感じました。

高校生や大学生を教育していて素晴らしいと思う一方で、一番基本となるのが外で遊んで身につける動きです。ボールを投げたり走ったりすることは、誰かに教えられて覚えたわけではなく、自然と身につけるものだと思います。地域で走り、近所の子たちと遊び、工夫しながら遊びを発展させる経験が昔はありましたが、今の小さいこどもたちの経験にはそのようなことが少ないです。外で遊ぶとうるさいと怒られて、家の中にこもっているということもあります。そのような機会が非常に少なくなっていることがおそらく原因になっていると思うのですが、なかなか体を動かす機会がないので、このままではまずいと体育教室の先生から聞きました。運動神経が発達するのは5歳から8歳くらいまでで、その後最終的に運動神経が完成するのは小学校3、4年生くらいまでだそうです。だから、本当に小さいうちから遊んでおかないと、大人になってから変な動作になってしまうと心配している大人もいます。家庭教育の中でそういう基本的なことから教えてほしいと思います。

また、今はSNSが非常に発達していて、その中でいじめなどの問題が多く出てきています。家の中での親子の会話もない。学校からのお知らせもLINEで送るので、親子で「次の参加日来る？」といった会話をしなくなっている。「忙しくて行けない」、というやり取りも減っている。このように家の中で会話をしない家庭が多いという話をよく聞きます。だから、学校の先生は家庭教育で行うべき教育まで学校で教えている現状で、先生方の負担が非常に大きいと感じます。私としては家庭教育支援活動をもう少し理解していただければと思います。本当に大変だということは分かっているのですが、気になる子どもも多く、親の関わり方にも問題があると思います。根本的に基本的なことを教えるお母さんたちの知識が不足していることもあると思います。ですので、こちらで行っている活動の中でもご指導いただければありがたいです。

### 【委員】

私は、家庭教育アドバイザーをやっています、そこでは親楽プログラムという活動の指針があります。あおもり家庭教育10か条をもとに親楽プログラムを作り、その運営のためにあおもり家庭教育アドバイザーという講座を行っていることを認識しています。その家庭教育アドバイザー自身が親の実態を知っているかどうか、最初にそこを伝えてほしいです。なぜこのプログラムのやり方なのか、周知の仕方もちろん大事ですが、なぜこの親楽プログラムがあるのか、まず家庭教育の基本として、10年、20年前に先輩たちが考えてくださった「あおもり家庭教育10か条」を踏まえて、家庭教育アドバイザーの研修で伝えるということです。以前はしつけは古いものだと言われていましたが、家庭生活上で最初に教えなければいけない一般社会のルールなどを大事にしていることを、アドバイザーの教育に入れていただきたいと思います。

また、残念だったことは、去年9月28日にアドバイザーの研修会があったのですが、この時期は学校でもいろいろなところで研修会や大会をやっているため、私自身も活動と重なって出られなかったことです。せっかくアドバイザーの研修で、卒業した方たちの事例発表やチームワークのための研修をしているのに行けなかったことが非常に残念でした。やはり、卒業したアドバイザーや活動している方が顔を合わせて話すことが大事なので、研修を行うのであれば参加できる時期に設定していただくと助かります。担当の方からアドバイザーとして発表をと連絡をいただきましたが、本当に出られないことが多く、もったいないと感じています。

研修の時期や事例発表の焦点については、今回は周知のための研修をメインにしている、今回は運営のための研修をみなさんと話したい、などと目的を明確にさせていただき、ただ集まってくださいではなく、何を目的に集まるのか、研修で何をするのかを示してほしいです。みなさんが出たくなるような、アド

バイザーのヒントになるような研修をしていただけるとありがたいと思います。

### 【委員】

シーズネットワークの大西です。感想ですが、伺っております、事業が現実的でシンプルだと感じ、とてもいいと思いました。青森県は人口減少率が高いですが、ここで行っている取組みは全国で先進的な事例になっていくと思います。「シャメルン」と「もりのん」の話のときに広報活動に力を入れるという話がありましたが、事業は実施するだけでなく、広報で知ってもらうことも非常に大事ですし、継続することも重要だと改めて感じました。人と人をつなぎ、人を育てるという点で、これは社会協働の推進につながると思います。これから青森県のみなさんで取り組んでいくことになるのではないかと聞いていました。そうすると、高校生や大学生で、青森県でやっていこうというか、青森県で生きていくと決めている層がある程度いると思うので、高校生の時からいろいろな体験をして、青森っていいところだな、ここで頑張っっていききたいなという人を育てていくことにつながるのかなと思い、私も参考になりましたし、とてもいいなと思いました。

先ほど、家庭の中で会話がないうという話がありましたが、情報の発達によって学校から子どもへ、学校から保護者へと直接情報が届くことで、家の中で明日の準備の話をするとか、そういう会話をする必要がなくなっている時代なので、そこでどうやって家庭の中の会話を作っていくかが、これからの大きな課題になっていくのではないかと考えています。

### 【委員】

実績、事業概要を拝見しまして、今回の紙の資料は非常に見やすく、事業実績の報告にも熱が感じられたということが今日の一番の感想です。先週末に放送局が主体となって実行委員会を立ち上げ、あるイベントが開催されました。『映像のチカラ、地方のチカラ、未来へ』というイベントで、高校生や大学生など若い制作者を集めてフォーラムを行い、高校生の放送部の子たちに映像の指導をする機会がありました。青森中央高校と青森南高校と五所川原高校の、20人くらいが日曜日に会社に来て、一緒に短編動画の制作をしました。放送関係者がディレクターとして関わる機会はこれまであまりなかったので、非常に楽しかったですし、彼らの発想には感心するところがいろいろありました。放送部の子たちも、プロの仕事から学ぶ機会がこれまでなかったので、とても喜んでもらえ、双方にとってすごく良い経験になりました。この事業は助成金をいただいております、今、事業報告書を書いている最中です。事業報告書に書きたいことはたくさんあって、それを書くことが今ちょっと楽しい状況です。そ

ういう事業は、継続性が出るのかなと感じています。我々大人は、自分のスキルを使って何かしたいという気持ちが誰にでもあると思います。職業上のことでもそうではないことでも、持っているスキルで役に立ちたいという気持ちです。中学生や高校生、大学生など、社会に出る前の人たちも、そのような可能性に触れたいという気持ちがあると思います。その2つが合致するところが、この社教センターでやられている事業だと感じながら、参加させていただき、とても勉強になりました。本当にありがとうございました。

### 【委員】

まずこのキーワード、「人と人をつなぐ人を育てる」は非常に良いキーワードだと思います。全ての人が地域づくりや地域活動に積極的に参加できるわけではないので、なかなかつながらない人を巻き込んでいけるようなパワフルな人をぜひ育成していただきたいと思います。あと、高校生や大学生を対象としたプログラムがたくさん用意されていて非常にいいなと思っています。若者の県外流出は大きな課題となっているので、ふるさとに誇りを持つ高校生、大学生をぜひ育成していただき、それが若者の間で広がっていくことを期待したいと思います。ウェルビーイングという言葉も出ていますが、それも非常に大事だと思っています。青森で暮らすことにウェルビーイングを感じてもらえるような地域づくりができればと思います。そうすると若い人も青森に残るようになるのではないかと考えているので、このような若者を対象にしたプログラムには非常に期待しています。よろしくお願いします。

### 【議長】

私からの感想と質問を一つよろしいでしょうか。今日はいつもと違う会議の進め方で、かなり幅広く各事業を説明していただきました。それを聞いた後で、改めて冒頭で所長から示されたセンターが目指す姿のキーワード、「人と人をつなぐ人を育てる」を見ると、確かにセンターの現状、それから令和8年度の事業は、様々な年代を対象に、この目標、このキーワードの実現に向けて事業が成り立っていることがよくわかり、大変参考になるとともに、ますます社教センターの事業を応援しようという気持ちになりました。

質問ですが、資料2-1の「5年後のめざす姿」で「何々が増えている」という表現が使われていますが、現状は数にすればどれくらいなのか、何をもちょうとした取り組みが行われているとみなすのか、現状値の把握を教えてください。それを踏まえて、5年後に「増えている」というのは目標値としてどれくらいを想定しているのでしょうか。数値目標の設定、指標の設定などは内部でなさっているのでしょうか。

## 【事務局】

めざす姿を作るからには目標値がなければいけないと思っております。実はそれを職員にこれをやれとはまだ言っていませんが、私の考えでは一番大きなアウトカムは、社会参加やボランティア活動をする人たちの行動率を上げることです。これが実は今、青森県は全国で最下位なんですね。この調査は国が5年に一度行っており、県も不定期に実施しています。指標が毎年作られているわけではないので、なかなか捉えるのは時間がかかるのですが、最終的にはそこに行き着きたい。少しでも行動率を上げていくことにつなげたいと思っております。個々の事業のアウトプットというか、例えば伴走支援でCSの熟議を何回やったとか、そういう「つなぐ」活動につながった実績をカウントすることは簡単にできます。そうしたものを目の前のアウトプットの指標としながら、最終的に行動率につなげていければいいなと思っております。今言ったことで職員もそうかと思ったと思います。

## 【委員】

数値目標達成が目的になってはいけないと思いますが、やはり数値目標や現状の把握がないと、やっても励みにならないこともあると思いますので、さらにご検討をお願いします。

## 【委員】

前回の会議のときに、PTAとして小中学生の総合学習で好みを引き出すような会をしたいと相談した件ですが、それを青森市の教育委員会とも相談しながら作り、1月24日に開催できました。こどもは13人が参加し、とても生き生きと話してくれました。その場で先ほどのセンターのキーワードにも出てきたように、大人がこどもに関わるという話も入れられたと思います。様々な種類の大人の方が関わってくれて、こどもたちの話を聞いていました。なかなか経験できないような感動がありました。不登校の子が3人くらいいたのですが、その子たちも大人たちが受け入れる感じだったので話してくれて、会場が涙にあふれました。

ある男の子の話ですが、お母さんが看護師なのでいつも忙しそうにして、お弁当をおにぎり1個だけ持って行っているのを見て、お弁当を作りたくなって作るようになったそうです。それを続けているうちにより上手くなったと発表していて、すすり泣きながら発表が終わりました。普段不登校で学校には行っていない子ですが、今回フリースクールの先生から「あなたのやっていることすごいからやってみなよ」と言われて、発表したということです。すごく良かったと思いました。教育委員会さんも、教育長さんも来てくださいました。

## 【委員】

皆様のお手元に、青森市家庭教育サポーター連絡会、通称サポセンの通信を配布しました。2月発行で、年2回の発行です。ココネットあおもりでは代表理事を務めていますが、こちらの団体の代表もしており、こちらの通信の他に家庭教育支援の活動として教育委員会と共に年7回の講座を開催しています。そのうち5回は当団体が企画運営を担当しています。サポセン通信では、企画した講座の紹介をしています。

また、子育て相談のQ&Aを毎回募集し、スクールカウンセラーの方に回答をお願いして記載しています。家庭教育のこういうものを出すこと自体はなかなか難しいのですが、市の教育委員会と連携して各小学校には「マチコミ」という形で、市の方から直接学校へ、学校から直接保護者へと配布しております。今、学校はスマホで連絡を取っているようなので、そこにサポセン通信も載せていただき周知をお願いしています。

家庭教育の講座というと難しく考えがちですが、正しい知識で正しい学びがあることを私自身大事にしています。情報はスマホで簡単に得られるかもしれませんが、実際に会って聞いて学ぶこともとても大事です。もしよければ、うちの講師派遣の紹介と一緒に講座を企画運営することもできますので、ぜひご協力いただけるとありがたいです。